令和２年度学校教育自己診断結果に対する分析

【生徒による評価について】

すべての項目において学校に対する評価が上昇している。その理由としてはこれまで同様に教職員が生徒に寄り添い、粘り強く指導・支援を行ってきたことが基盤にあると考える。それに加え、令和２年度は前年に比べ①「特性に応じたクラス編成」、②「６月学校再開時の分散登校」が学校に対する肯定的評価上昇につながる要因であったと考える。①については１年次のみ、高校生活での人間関係や勉強等に不安を感じている生徒のために他のクラスよりも人数が少ないクラスを２クラス編成し、安全で安心して学校生活を過ごせるよう環境を整備し、生徒間の仲間づくり、教職員との信頼関係づくりに重点をおいた取組みを行った。②についてはコロナ禍で４，５月は学校休業、６月からは１クラスを午前、午後に分けての分散登校を行った。普段は狭く感じる教室も生徒間の距離が適度に保て、授業後は担任の先生と時間をかけて個人面談をすることで高校生活にスムーズに入っていくことができたと考える。岬高校はこれからも障がいのある生徒、不登校経験のある生徒が安心してもらえる学校づくりをめざす。

【保護者による評価について】

学校に対する肯定的回答率は全体的に少しではあるが減少している。例年、保護者懇談、文化祭、体育祭、マラソン大会等、保護者が来校し、生徒の頑張っている様子を見たり、子どもへの教職員の関わりを確認する場面が多くあった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により行事の中止、来校者への制限等により、保護者が実際に見て、聞いて確認する場面がほぼ無くなり、電話連絡、学校メールや文書等のみでしか情報共有できない状態となった。令和３年度は行事については中止ありきではなく、延期してその状況下で行える内容を検討、コロナ禍でも実施可能な生徒のための行事について、先駆的な取組みを行う。併せて、学校ＨＰではできる限り生徒の様子を発信していく。

【教職員による評価について】

教職員が自分自身に対する評価として、授業改善や授業規律の確立に力を入れていることが確認できる。先述の通り、令和元年度から通級指導教室が設置され、障がいのある生徒が多く入学している。教員は多様な生徒に応じた授業を展開し、自身の授業の魅力化・特色化に努めている。

令和２年度はほとんどの学校行事が中止となり、学校行事に関する項目で数値が減少した。学校行事は生徒と教員が信頼関係を作る絶好の機会ととらえ、スケジュール調整や、内容の検討を行い、可能な限り実施する。

学校運営に対する肯定的評価はすべての項目において大きく上昇している。教員間で生徒に対する適切な指導方法や合理的配慮を考える機会が多くあり、校長が示す経営計画と教職員がめざすところが合致しつつあることがこの結果に結びついていると考える。